

# 砂地ほ場における高品質ショウガ生産技術

農業試験場 主査研究員 橋本真穂

## 【要約】

露地砂地圃場では、畝幅90~110cm、株間20cmの2条千鳥植えとし、140日溶出タイプのリニア型緩効性肥料を定植後40日頃に全量追肥施用とすると、高品質で一株重が800gを超える種ショウガを生産することができる。

## 【背景・ねらい】

和歌山市は全国有数の新ショウガ生産地であるが、種ショウガについてはほぼ全量を他県に依存しており、県内での種ショウガ生産技術の確立とその普及が急務となっている。そこで、高品質な種ショウガの安定供給を目的とし、露地砂地圃場での種ショウガ栽培技術の確立に取り組む。

## 【成果の内容・特徴】

1. 露地砂地圃場における種ショウガ栽培では、畝幅 90~110cm で 2 条千鳥植えとする場合、株間は 20~25cm が適していた (図 1)。
2. 露地砂地圃場における種ショウガ栽培の最適施肥量は 40kg/10a であり、特にエコロン 413-140 日タイプを用いて、定植後 40 日頃に全量追肥施用すると一株重が大きく、種ショウガの品質も良好であった (図 2)。
3. 露地砂地圃場において施用窒素量 40kg/10a、畝幅 90cm、株間 20cm で栽培した種ショウガを、収穫後 3 ヶ月間暗所・13°Cで貯蔵し、ハウス新ショウガ栽培に用いると、苗立ち率が良く、新ショウガ収量も 9.2t/10a を得られたが、県外産種ショウガに比べると収量はやや少なかった。

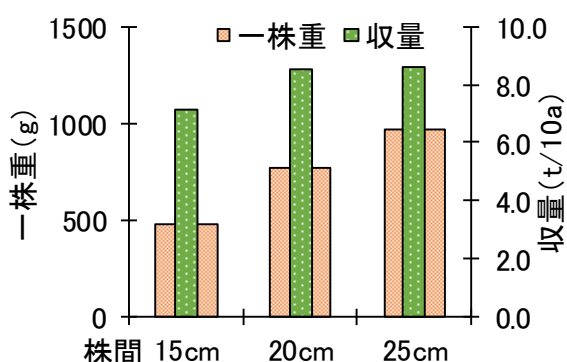


図1 栽植密度が種ショウガの一株重と収量に及ぼす影響

注) 畝幅90cm、2条千鳥植え  
スーパーエコロン413-180日を用いて  
30kgN/10aを全量基肥施用  
収量: 一株重(g) × 栽植密度

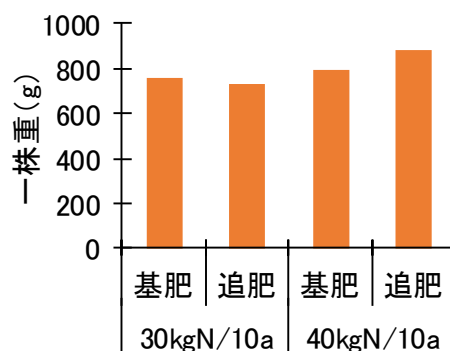


図2 施肥方法が種ショウガの一株重に及ぼす影響

基肥: スーパーエコロン413-180日を用いて全量基肥施用  
追肥: エコロン413-140日を用いて定植40日後に全量追肥施用